

石狩交流事業報告書

うんな中学校 2年A組 宮平 夏亜

私たちは、12月5日～8日まで北海道へ交流体験学習に行きました。北海道に着いたとき、空気がとてもひんやりしていて白い息が出たり、道路のわきに雪がたくさん積もっていたりして沖縄とは全く違う景色でわくわくしました。私たちが行った石狩市には石狩川という、日本で3番目に長い川があります。また、海もあるのでいろんな動物が生息していました。



左の写真は、二日目、石狩市について学ぶため資料館へ行った時の写真です。石狩市では、チョウザメを大切にされていて、サメさまといい神様のように扱っていました。また、石狩川には、昔からサケがたくさん泳いでいて、先住民のアイヌの人々は寒さをしのぐためにサケの皮で作った靴(けり)をはいていたことがわかりました。明治10年には、日本で初めての缶詰工場ができました。そこではサケの缶詰を作っていました。

石狩市には「パールライス工場」という収穫したお米を精米加工する工場がありました。私たちはそこへ見学に行きました。北海道は寒さに厳しくお米が育ちにくい環境でしたが、品種改良を重ね今ではたくさんのブランド米を出していることがわかりました。また、工場の中の様子を初めて見たので新しくお米の精米加工から出荷前の様子を知ることができました。

右の写真は石狩市にある花川南中の生徒と交流したときの写真です。沖縄では体験することのできない雪遊びをしました。雪だるまを作るのは、雪がうまく固まらず意外と難しかったです。そのほかにもそりを用意してくれて、雪の積もった山を滑ることが楽しかったです。



中学校に入ると靴箱がたくさん並べてありました。そこを進むとまたドアがあったので驚きました。北海道の学校はクーラーがなく、暖房がついていました。また、給食を食べた時に出た、牛乳がとてもおいしかったです。給食では花川南中の生徒がたくさん話しかけてくれてうれしかったです。北海道と沖縄の学校の違いを知ることができました。

〈感想〉

今回の体験で沖縄と北海道の違いや文化、雪遊びなどを体験することができてとてもたのしかったです。一番驚いたことは、北海道の学校にクーラーがついていないということです。また、道に狐がいたり、猫を一回も見なかったりと生息する生き物にも違いがあることに気づきました。

沖縄ではできないスポーツのスキーをしました。止まるときは八の字にするというコツをつかむことができたのでスラスラと滑ることができて楽しかったです。また、雪まつりでは、細かく彫られていたりきれいな形で、とても大きいものもあってすごいなと思いました。

とてもいい経験になったので今後にかかしていきたいです。